

花彩る春を

詞：上島美枝，1961-

曲：高浪器一，1941- INOCHI

1 は ないろどるはるを このともは 生きた、
 2 みどりもえるなつを このともは 生きた、
 3 いろづきゆくあきを このともは 生きた、
 4 ゆきかがやくふゆを このともは 生きた、

いのち - みたすあいを うたいつつ。
 ▶ いのち - いかすみちをもとめつつ。
 いのち - ひとのために もやしつつ。
 ▶ いのち - あたためつつ やすらかに。

なやみ つまずくとき、このともが うたが
 ▶ なやみ つまずくとき、このともが すた
 なやみ つまずくとき、このともは しめす
 ▶ この日、目を閉じれば おもいうかぶのは

わ たしをつれもどす 主のみちへ。
 ▶ わ たしをふりかえる 主のみちで。
 ▶ あ ゆみつづけてきた 主のみちを。
 ▶ こ のともをつ つんだ 主のひかり。

(♩=88)

1 花彩る春を この友は生きた、
 いのち満たす愛を 歌いつつ。
 悩みつまずくとき、この友の歌が
 私をつれもどす 主の道へ。

2 緑もえる夏を この友は生きた、
 いのち活かす道を 求めつつ。
 悩みつまずくとき、この友のすがた
 私をふりかえる 主の道で。

3 色づきゆく秋を この友は生きた、
 いのち 他人のために 燃やしつつ。
 悩みつまずくとき、この友は示す
 歩みつづけてきた 主の道。

4 雪かがやく冬を この友は生きた、
 いのちあたためつつ やすらかに。
 この日、目を閉じれば 思いうかぶのは
 この友を包んだ 主の光。

ア - メン。

コヘ12:1-2 ルカ2:25-38 詩71:18-19, 119:9